

アジア圏戦略の次段階化の検討 ー 中国・ASEANの産業・消費の高度化への適応 ー

日本大学 生物資源科学部 教授 朽木昭文氏

多くの発展途上国、新興国が、経済発展により一人当たり GDP が中程度の水準（中所得）に達した後、成長率が低下する、あるいは、経済が停滞する現象が起こる。いわゆる中所得国の罠である。

今年度 JICA が 2025 年を予測した。既に先進国水準に達しているシンガポール、ブルネイを除くと、ASEAN では、マレーシアの所得水準が一番高くなる。しかしそのマレーシアでさえ中所得国の段階を超えられない。

これをどうやって超えるか。どうすれば、国民一人当たり GDP \$ 15,000 を突破して、\$ 2～30,000 に達することができるのか。これがアジアの課題なのです。（参考－OECD 加盟の目安：国民一人当たり GDP 約 \$ 10,000）。

ASEAN がこれから抜け出すためにここにいる皆さんの力がある。アジアの福祉水準、公共水準があがれば日本の会社も利益が上がる。アジアの人の福祉水準が上がっていくという意味で、「罠」という言葉が重要になる。これからは労賃がどんどん上がっていく。例えば自動車では設備投資をそれぞれの国で次はどうするか、という問題が出て来ている。

本当は、アジアにとってこれは「罠」ではないはずである。なぜか？日本というモデルがあるからである。日本の経験した道を歩く。それが処方箋である。

少子高齢化、域内・国内で格差の拡大、環境問題。この 3 つの要因が「中所得国の罠」の要因として各国の成長と所得向上に響いてくる。（中略）

タイの問題は、「農業人口が多すぎる」ということである。現在 40%位が農業人口。タイくらいの所得に達した国であれば農業人口がグッと減らなければならない。政府が補助金を与えて農業に人々を引き留めているのである。ところが、段々補助金が足りなくなってきた財政赤字が問題化している。

そこで、補助金を止めて農業からサービス業にシフトすれば自然な流れになるであろう。この話をした後、タイの大使が大喜びで私のところに飛んできて、「中所得の罠からはそのように抜け出せばいいのか」と感謝されました。生産重視から消費重視へ変えていくことによって、罠から抜け出せるのである。